

令和6年中の特殊詐欺等の情勢と今後の体制強化等について

※ 数値は確定値で、各数値の増減は前年対比を示す。

【 特殊詐欺の特徴 】

- 特殊詐欺の認知件数と被害額は、いずれも前年より増加し過去最多
- 都道府県別では、特殊詐欺全体の認知件数が全国ワースト6位、被害額が全国ワースト7位
- 架空料金請求詐欺の認知件数と被害額は減少したものの、オレオレ詐欺と還付金詐欺の認知件数と被害額が増加するなど、極めて深刻な状況
- 特に、インターネットバンキング利用による被害額が大幅に増加
- 国際電話番号の犯行利用が急増
- オレオレ詐欺の手口が親族騙り（息子等）から警察官騙りに変化
- 県民の協力で水際阻止件数は大幅に増加

【 SNS型投資・ロマンス詐欺の特徴 】

- SNS型投資・ロマンス詐欺の認知件数と被害額は、いずれも前年より増加し過去最多
- 都道府県別では、SNS型投資・ロマンス詐欺全体の認知件数が全国ワースト2位、被害額が全国ワースト3位
- SNS型ロマンス詐欺の認知件数・被害額は、いずれも全国ワースト1位
- 被害額は特殊詐欺の3倍を超え、極めて深刻な情勢
- 被害者の年齢層が、高齢者だけではなく現役世代も被害

1 特殊詐欺の認知状況

(1) 情勢全般

- 令和6年中における特殊詐欺の認知件数は1,445件で、前年と比較すると221件増加。被害額は約32億7,000万円で約10億8,000万円増加
- 手口別の認知件数と被害額では、オレオレ詐欺が大幅に増加
- 交付形態別の被害割合をみると、特にインターネットバンキング利用による被害額が大幅に増加

図表1 特殊詐欺の認知件数・被害額の推移（全国対比）

		R2	R3	R4	R5	R6	増減	率
兵 庫 県	認 知 件 数	1,027	859	1,074	1,224	1,445	221	18.1%
	被 害 額（億円）	16.6	11.6	18.1	21.9	32.7	10.8	49.3%
全 国	認 知 件 数	13,550	14,498	17,570	19,038	21,043	2,005	10.5%
	被 害 額（億円）	285.2	282.0	370.8	452.6	718.8	266.2	58.8%

図表2 特殊詐欺の手口別認知件数の推移

	R2	R3	R4	R5	R6	増減	率
オレオレ詐欺	44	32	61	86	244	158	183.7%
預貯金詐欺	348	69	58	94	143	49	52.1%
架空料金請求詐欺	217	305	410	511	424	-87	-17.0%
還付金詐欺	288	310	394	355	456	101	28.5%
その他	35	20	12	14	53	39	278.6%
キャッシュカード詐欺盗	95	123	139	164	125	-39	-23.8%
総計	1,027	859	1,074	1,224	1,445	221	18.1%

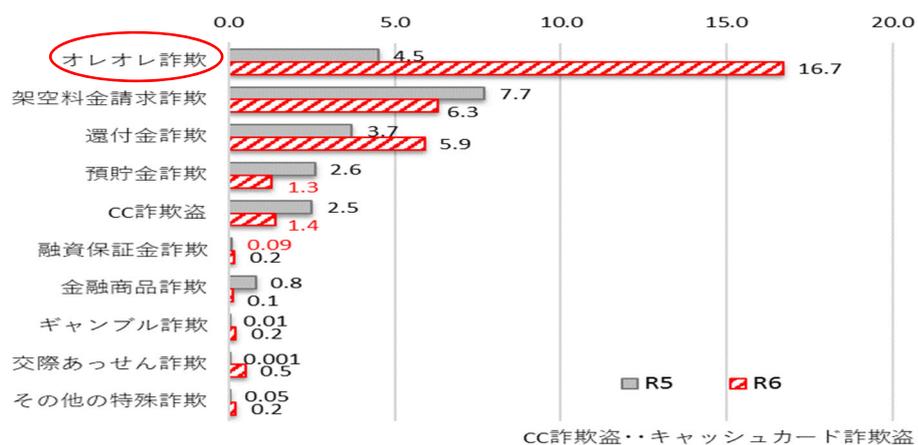
図表3 特殊詐欺手口別被害額の推移

(単位：億円)

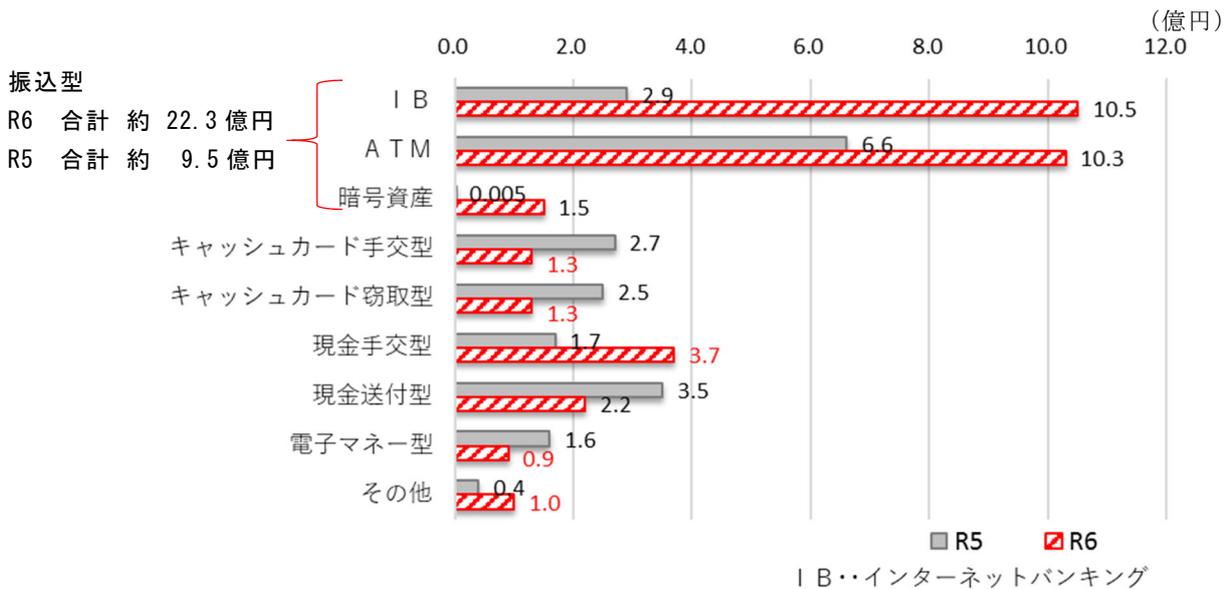
	R2	R3	R4	R5	R6	増減	率
オレオレ詐欺	1.9	1.0	2.6	4.5	16.7	12.2	267.8%
預貯金詐欺	5.5	0.7	0.4	2.6	1.3	-1.3	-50.0%
架空料金請求詐欺	4.9	5.0	9.5	7.7	6.3	-1.3	-17.5%
還付金詐欺	2.6	2.8	3.5	3.7	5.9	2.3	61.8%
その他	0.6	0.3	0.2	0.9	1.1	0.2	26.9%
キャッシュカード詐欺盗	1.0	1.7	1.9	2.5	1.4	-1.1	-44.0%
総計	16.6	11.6	18.1	21.9	32.7	10.8	49.3%

図表4 手口別被害状況（被害額）

(億円)



図表5 交付形態別被害状況（被害額）



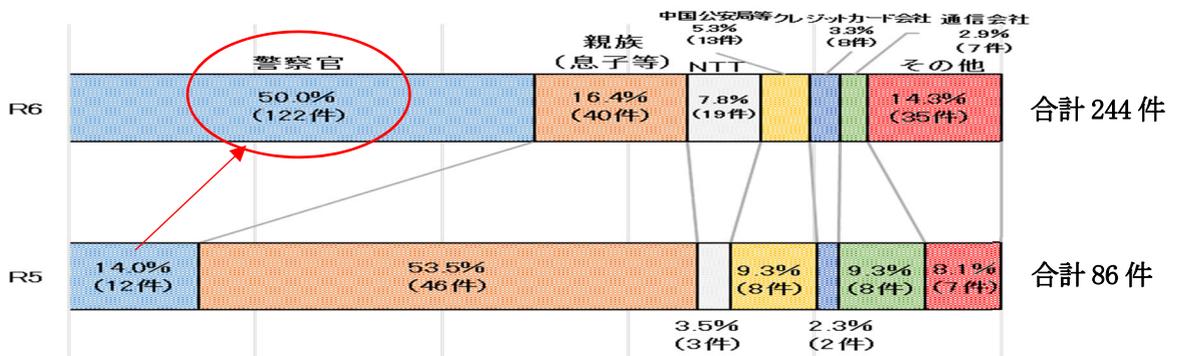
(2) オレオレ詐欺の被害状況

- 騙り別の発生状況割合をみると、令和5年中は警察官騙りが14%であったが、令和6年中は50%と増加
- 65歳以上の高齢者の割合は、令和5年中は78%であったが、令和6年中は55%に減少しており、現役世代の被害割合が増加
- 交付形態別割合をみると、令和5年中はインターネットバンキングが約1億9,000万円であったが、令和6年中は約8億1,000万円と大幅な増加

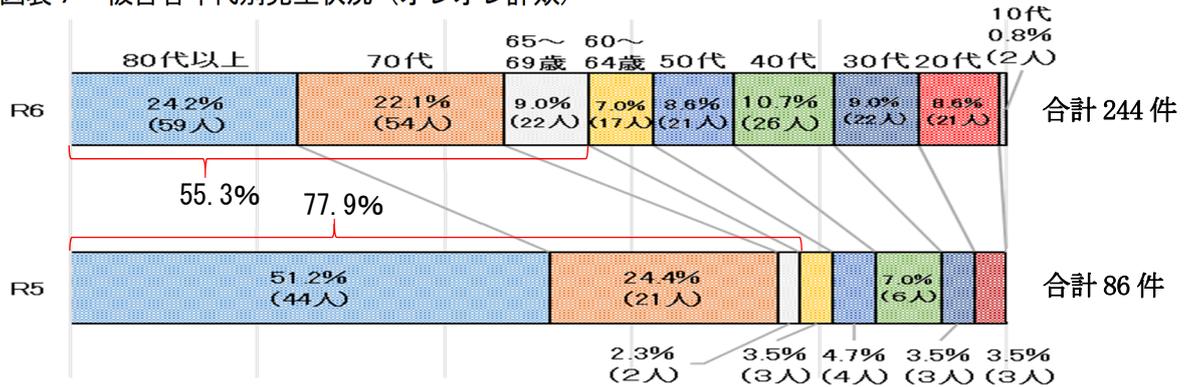
【手口の典型例】

警察官を騙り、被害者が犯罪に関与していることを電話で告げ、LINEに誘導した後、偽の警察手帳や逮捕状を示し、警察官であることを信用させ、「資金調査」や「保釈金」などの名目で、インターネットバンキングから送金させる手口

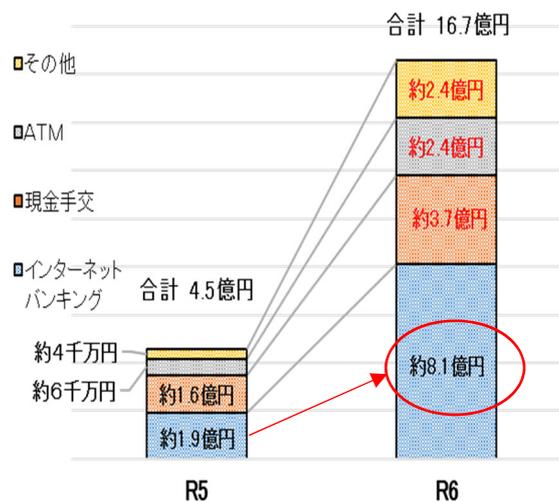
図表6 騙り別発生状況（オレオレ詐欺）



図表7 被害者年代別発生状況（オレオレ詐欺）



図表8 交付形態別発生状況（オレオレ詐欺の被害額）



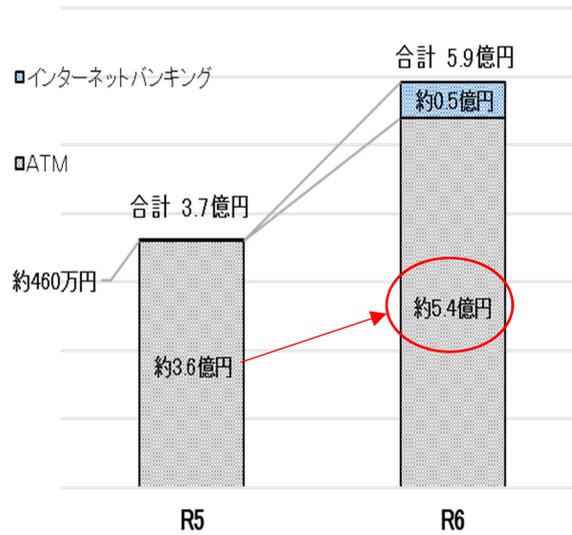
(3) 還付金詐欺の被害状況

- 犯人のアプローチをみると、令和5年・令和6年ともに99%が固定電話
- 65歳以上の高齢者の割合は、令和5年は88%、令和6年は89%と高水準
- 交付形態別をみると、ATMでの交付が令和5年は約3億6,000万円であったが、令和6年は約5億4,000万円に、インターネットバンキングは令和5年が約460万円であったが、令和6年は約5,000万円にそれぞれ増加

【手口の典型例】

市役所職員を騙り、自宅固定電話に「還付金を受け取れる」などと電話をかけ、ATMに誘導し、現金を振り込ませる手口

図表 9 交付形態別発生状況（還付金詐欺）



(4) 相談件数

令和6年中は10,443件受理し、前年対比で2,810件増加

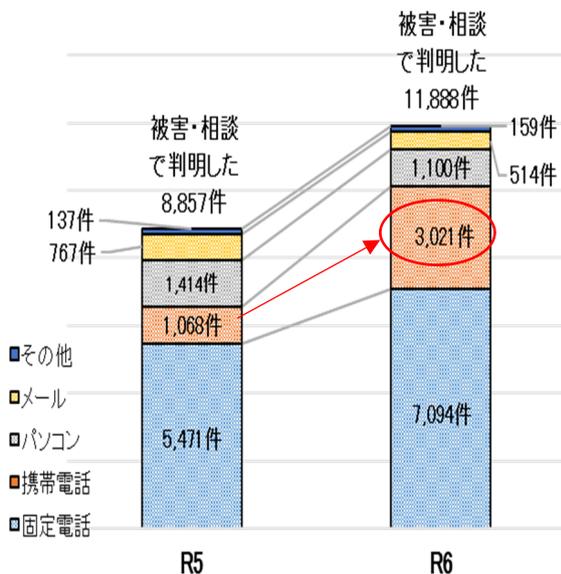
図表 10 相談の推移

	R2	R3	R4	R5	R6	増減	率
相談件数	4,769	3,976	5,028	7,633	10,443	2,810	36.8%

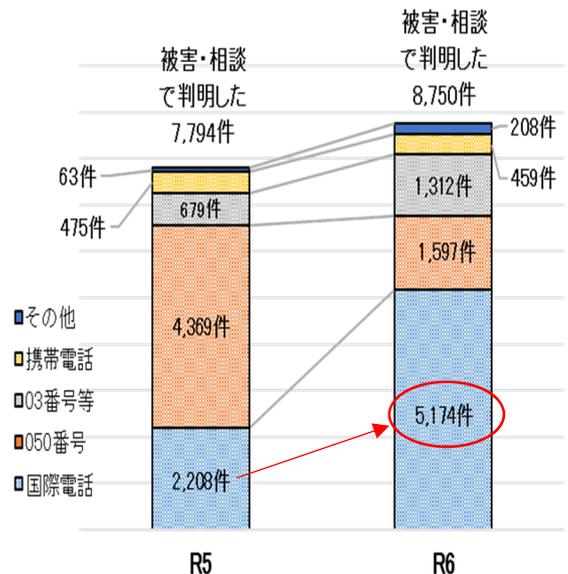
(5) 犯行ツール

- 犯人からのアプローチ状況をみると、令和5年中は被害者の携帯電話への連絡が1,068件であったが、令和6年中は3,021件と増加
- 犯行利用電話番号種別状況をみると、令和5年中は国際電話が2,208件であったが、令和6年中は5,174件と増加

図表 11 犯人からのアプローチ状況



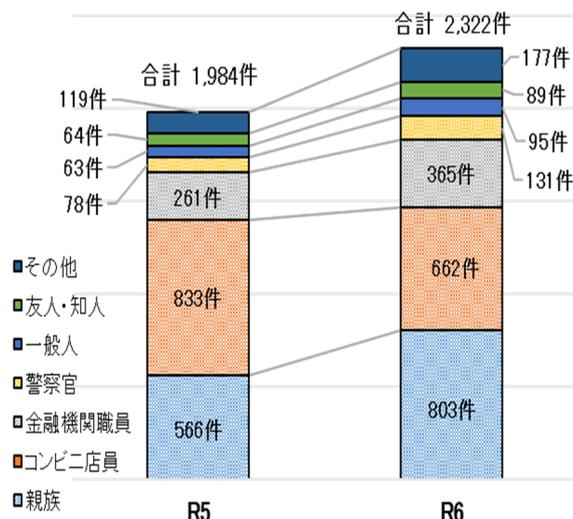
図表 12 犯行利用電話番号種別状況



(6) 水際阻止状況

- 令和6年中において、親族などの声掛けにより、被害を水際で阻止した件数は2,322件であり、前年と比較して338件増加
- 阻止した者の内訳は、親族が約35%、コンビニエンスストア店員が約29%、次いで金融機関職員が約16%の順

図表13 水際阻止者状況



(7) 検挙状況

令和6年中は、207件66名を検挙

図表14 特殊詐欺被疑者検挙人員の推移

	R2	R3	R4	R5	R6	増減	率
検 挙 件 数	226	211	148	192	207	15	7.8%
検 挙 人 員	86	80	48	77	66	-11	-14.3%

2 SNS型投資・ロマンス詐欺の認知状況

(1) 情勢全般

令和6年中におけるSNS型投資・ロマンス詐欺の認知件数は914件で、前年と比較するとプラ

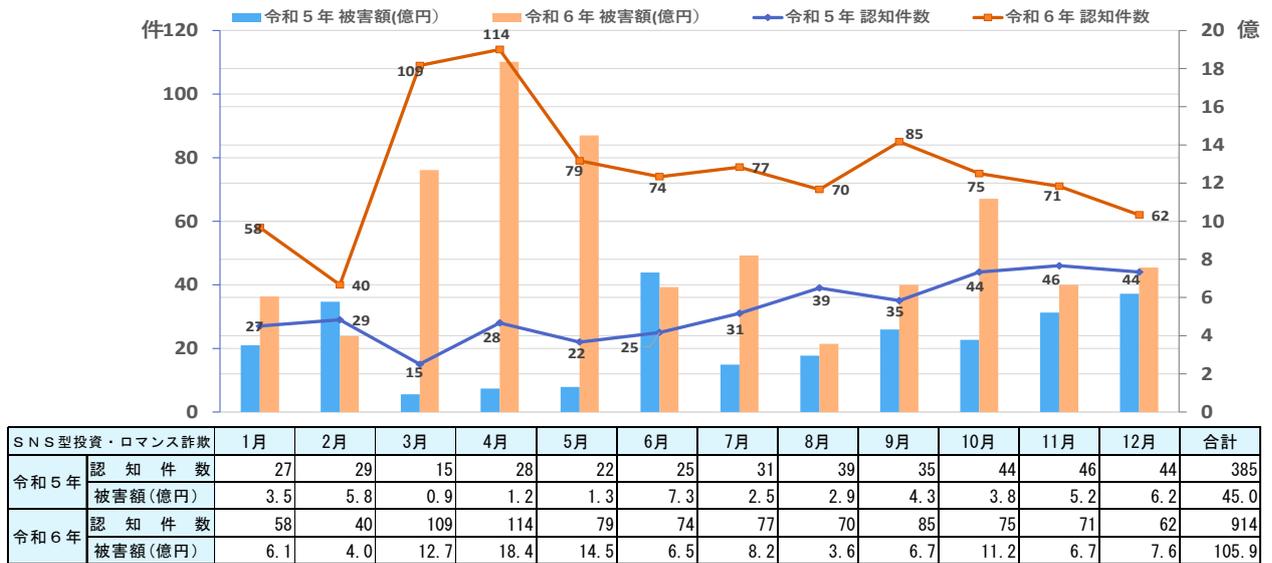
(2) 529件、被害額は約105.9億円で同じくプラス約61.0億円といずれも大幅に増加

月別推移をみると、認知件数は前年同月と比較し大幅に増加。4月の114件をピークに以後はやや減少し75件前後で推移

図表15 SNS型投資・ロマンス詐欺の認知状況

		R5	R6	増減	率(%)
兵 庫 県	認 知 件 数	385	914	529	137.4%
	被 害 額 (億 円)	45.0	105.9	61.0	135.6%
全 国	認 知 件 数	3,846	10,237	6,391	166.2%
	被 害 額 (億 円)	455.2	1,271.9	816.8	179.4%

図表 16 月別推移（SNS型投資・ロマンス詐欺）



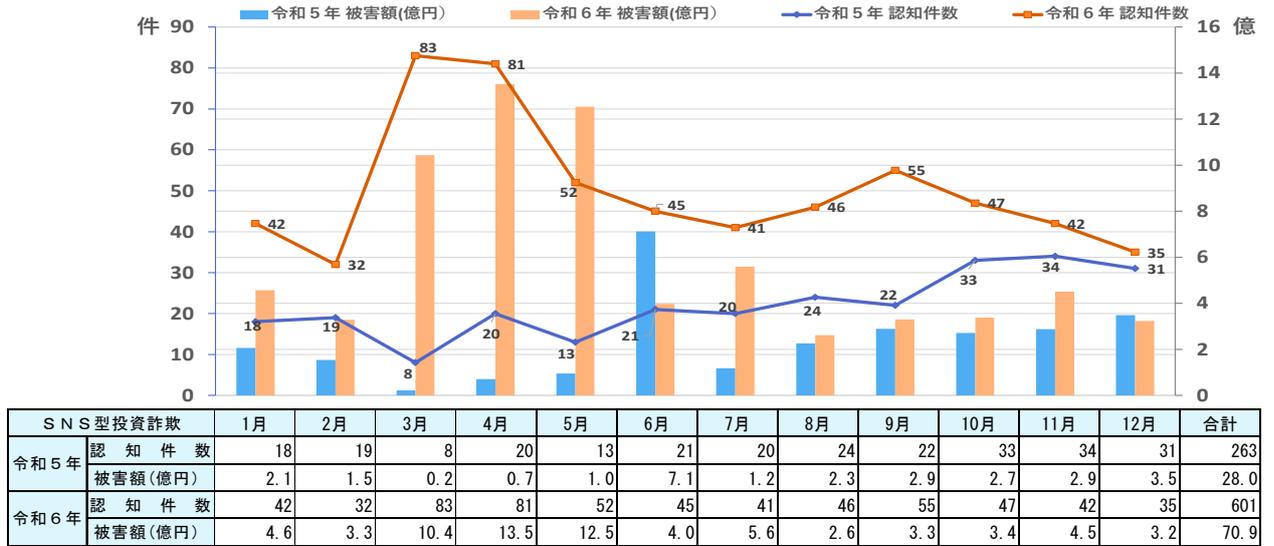
(2) SNS型投資詐欺の被害状況

- 既遂1件当たりの平均被害額は約1,190万円
- 被害者の性別は、男性が331人、女性が270人と、男性が女性を10.2ポイント上回り、年齢層は男性、女性ともに40代～70代が多数を占め、幅広い年代に被害
- 被害額の分布は、500万円未満の割合が全体の52.1%を占めるが、500万円以上の合計被害額は約65.2億円と、全体の被害額の91.9%
- 被害金の主たる交付形態は振込型が全体の88.7%を占め、振込型の66.2%がインターネットバンキングを利用
- 最初の接触ツールとしてInstagramやフェイスブック、LINEで全体の半数を超過
- 欺罔に利用されたツールは92.8%がLINE
- 最初の接触手段としてバナー等広告50.2%、ダイレクトメッセージ34.8%で全体の85.0%
- バナー等広告による接触は4月のピーク以降減少しダイレクトメッセージと同水準で推移

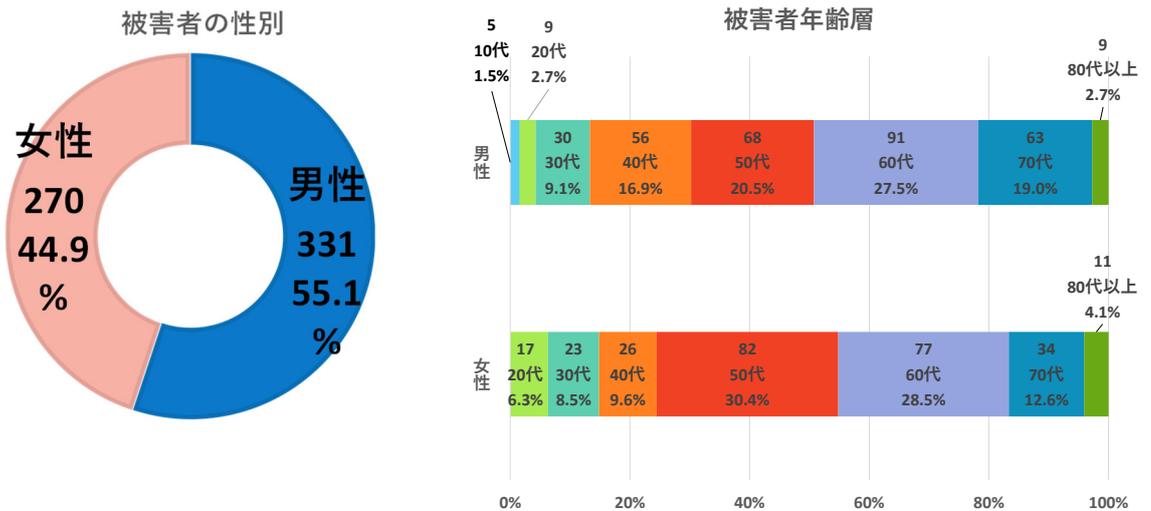
【手口の典型例】

- Instagram、フェイスブック、LINE等のバナー等広告やダイレクトメッセージを入口にしてLINEでのやり取りへ誘導、投資話を持ち掛け、個人や法人名義の口座、暗号資産送金先アドレスを指定し現金を振り込ませる、暗号資産を送金させる等し、投資アプリ上で利益が出ているように見せかけ、出金を試みると様々な理由をつけ出金に応じず、騙し取る手口
- バナー等広告の「動画を視聴するだけで少額の報酬がもらえる」などと謳う副業を入口とし、その後、高額タスク等と称し「自己の資金を振り込むと利益が出る」と謳う投資話に誘導し、金銭をだまし取る手口

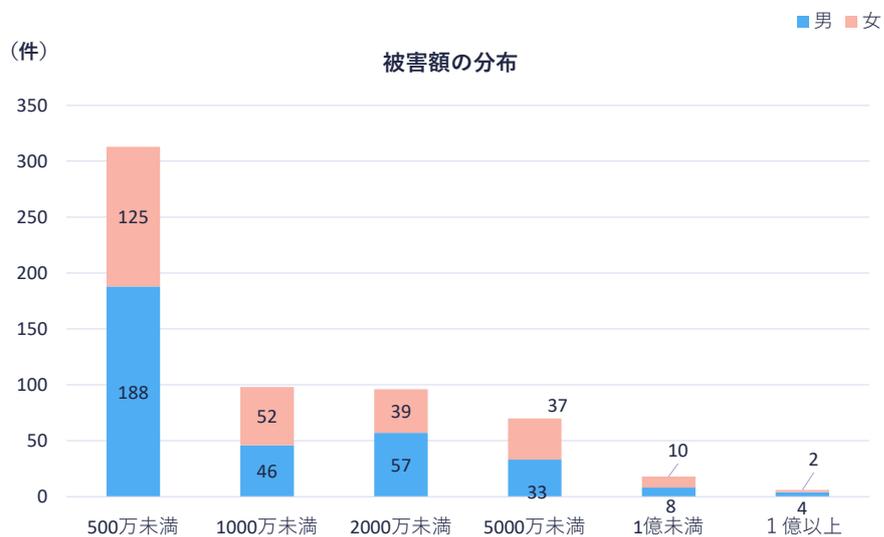
図表 17 月別推移 (SNS型投資詐欺)



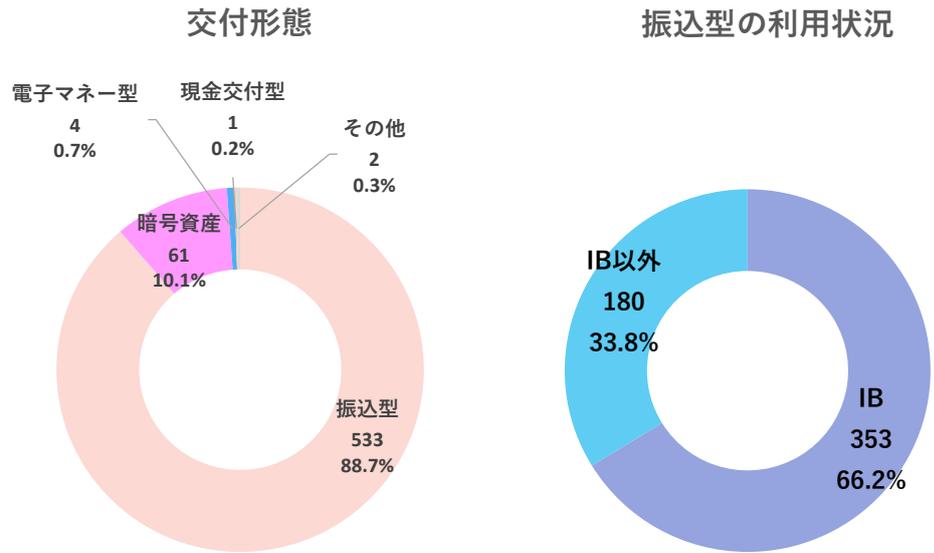
図表 18 被害者の性別及び年齢層



図表 19 被害額の分布

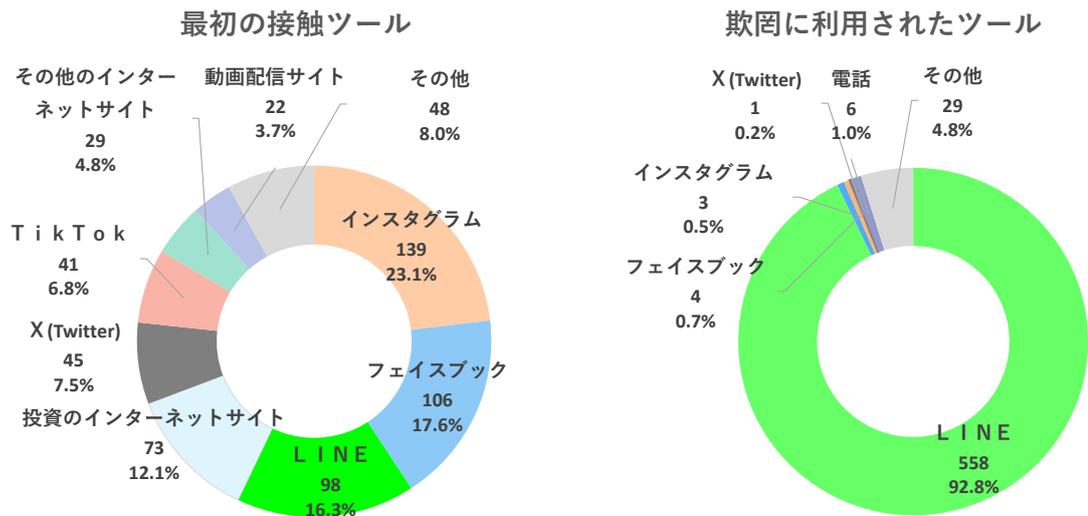


図表 20 被害金の主たる交付形態及び振込型のネットバンキング利用状況

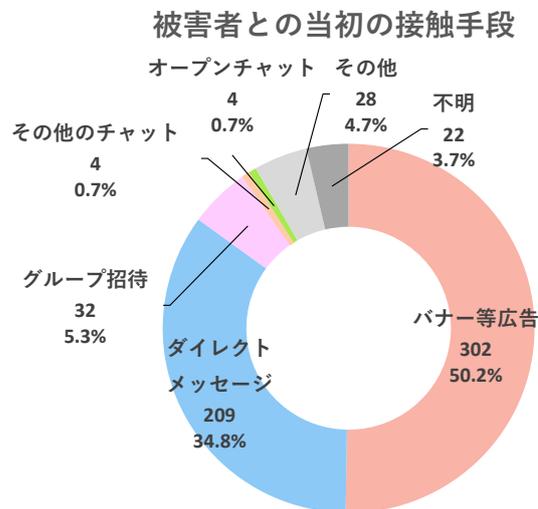


IB…インターネットバンキング

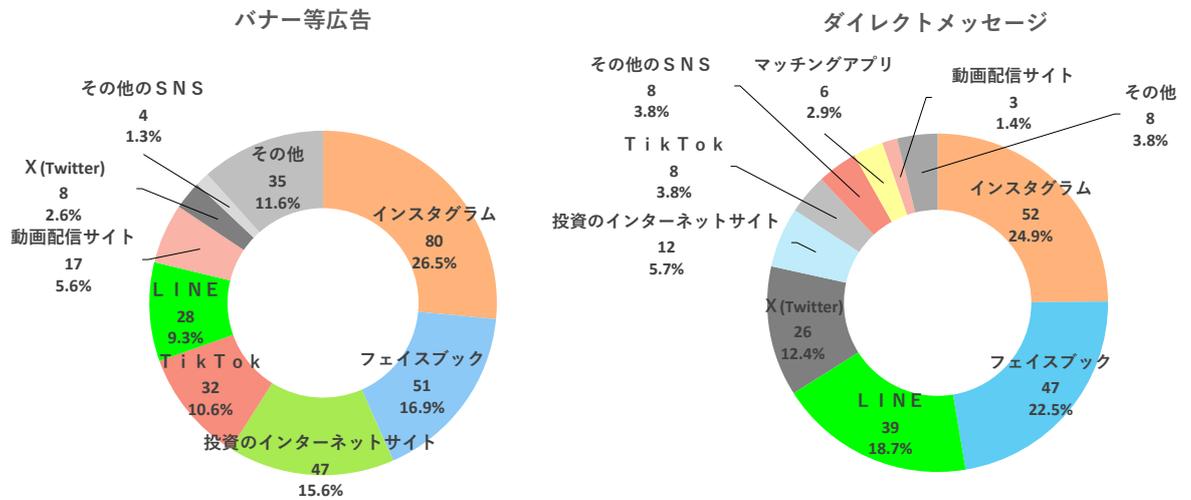
図表 21 犯行ツール（最初の接触ツール・欺罔に利用されたツール）



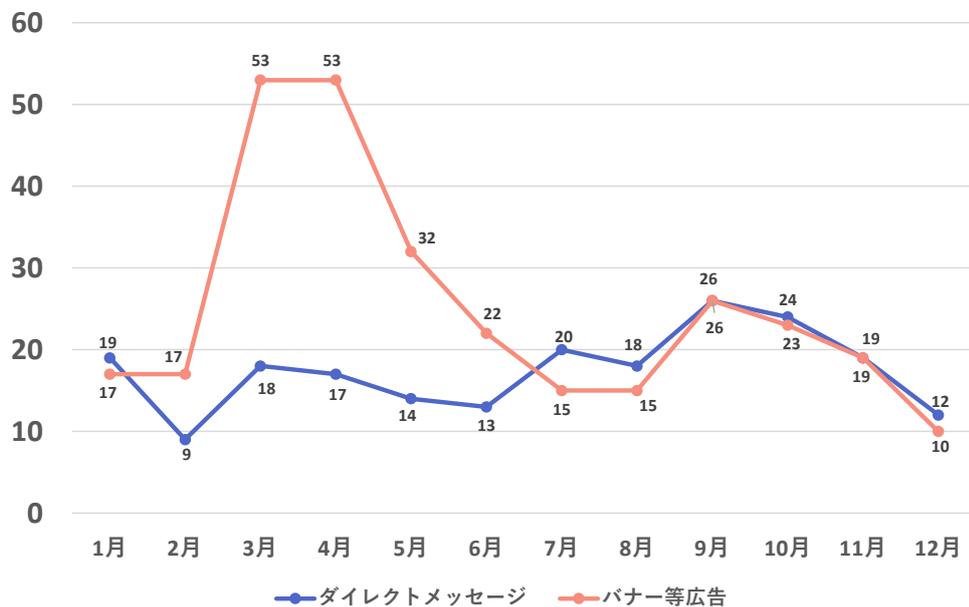
図表 22 当初の接触手段



図表 23 バナー等広告及びダイレクトメッセージの内訳



図表 24 バナー等広告とダイレクトメッセージの月別推移



(3) SNS型ロマンス詐欺の被害状況

- 既遂1件当たりの平均被害額は約960万円
- 月別推移をみると、認知件数は年間を通じて30件前後で推移
- 認知件数は69.6%、被害額は84.7%が投資名目
- 被害者の性別は、男性が194人、女性が119人と男性が女性を24.0ポイント上回り、年齢層は男性、女性ともに40代~60代が多数を占め、現役世代も被害
- 被害額の分布は、500万円未満の割合が全体の56.9%を占めるが、500万円以上の合計被害額は約32.1億円と全体の被害額の91.8%

- 被害金の主たる交付形態は振込型が全体の81.5%を占め、振込型の52.2%がインターネットバンキングを利用
- 最初の接触ツールとしてマッチングアプリやインスタグラム、フェイスブックで全体の80.8%
- 欺罔に利用されたツールは93.9%がLINE
- 最初の接触手段としてダイレクトメッセージが全体の96.2%
- ダイレクトメッセージの内訳はマッチングアプリ(42.9%)、インスタグラム(19.9%)、フェイスブック(19.6%)で全体の82.4%

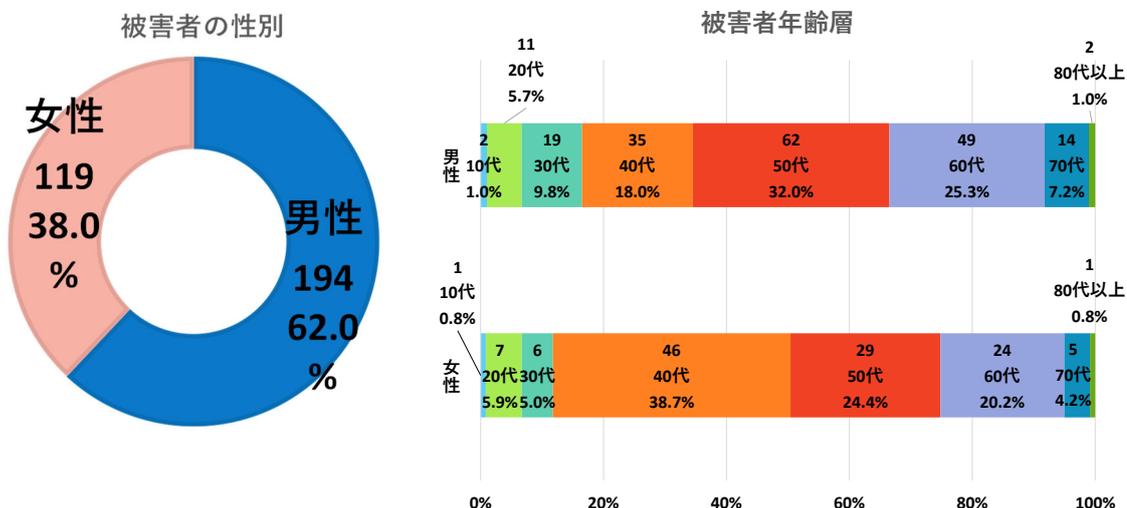
【手口の典型例】

- マッチングアプリ、インスタグラム、フェイスブック等のダイレクトメッセージで接触し、LINEでのやり取りへ誘導、やり取りを重ねて恋愛感情や親近感を抱かせ投資に誘導し金銭を騙し取る手口
- マッチングアプリ、インスタグラム、フェイスブック等のダイレクトメッセージで海外の医師や軍関係者を装って接触し、LINEでのやり取りへ誘導した後、やり取りを重ねて恋愛感情や親近感を抱かせ交際の継続を前提に渡航費や荷物の運送費用名目で金銭をだまし取る手口

図表 25 月別推移 (SNS型ロマンス詐欺)



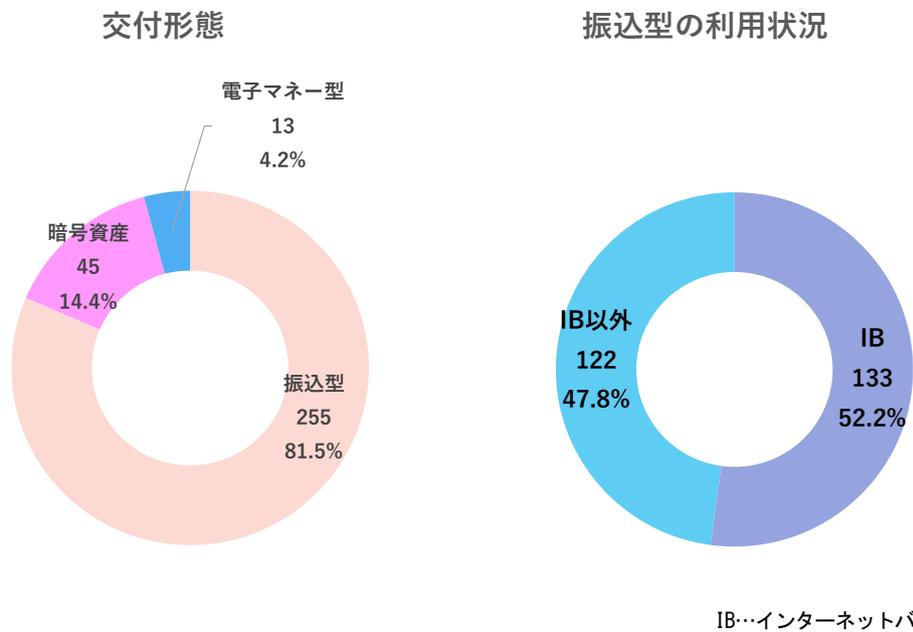
図表 26 被害者の性別及び年齢層



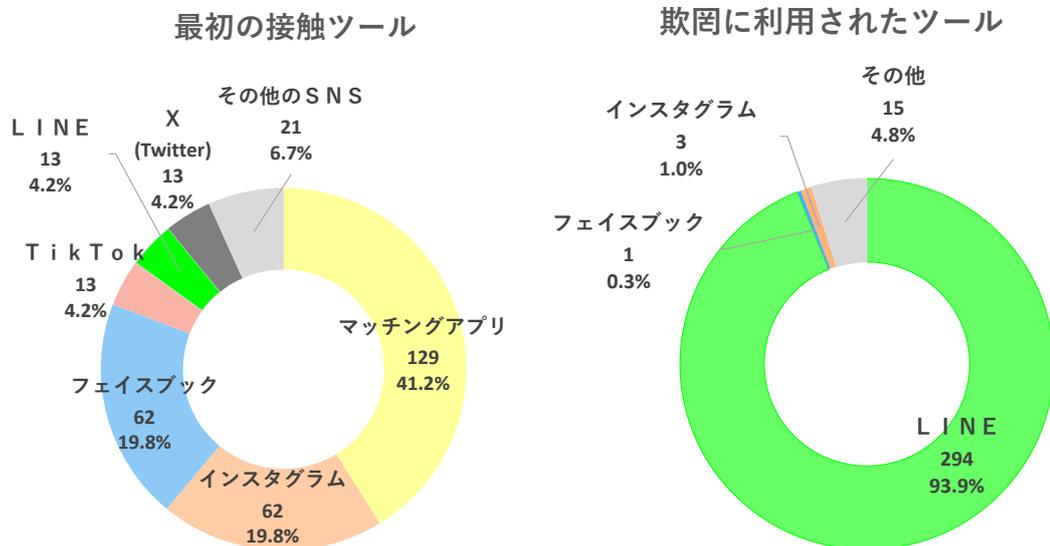
図表 27 被害額の分布



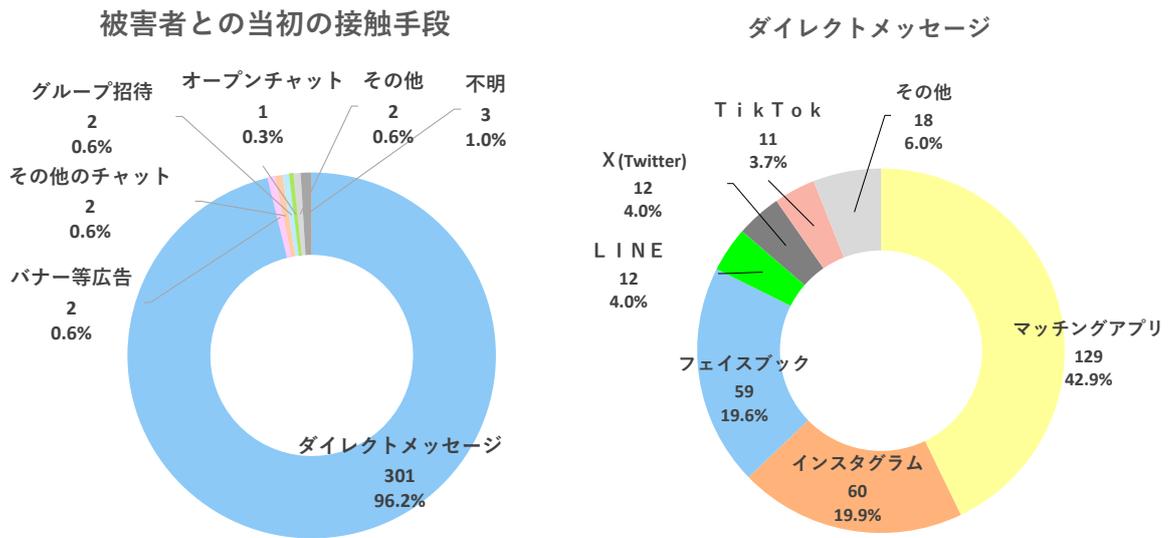
図表 28 被害金の主たる交付形態及び振込型のネットバンキング利用状況



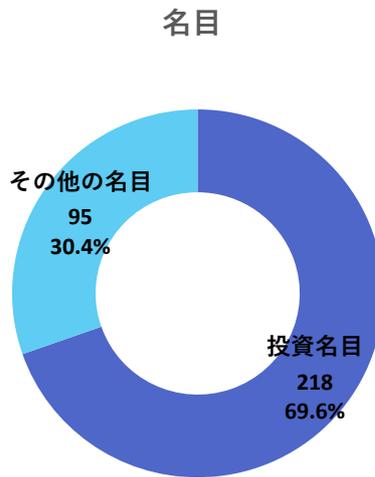
図表 29 犯行ツール（最初の接触ツール・欺罔に利用されたツール）



図表 30 当初の接触手段及びダイレクトメッセージの内訳



図表 31 名目の内訳



(4) 検挙状況

令和6年中は、24件8名を検挙

図表 32 検挙状況（SNS型投資・ロマンス詐欺の検挙件数・検挙人員）

	検挙件数	検挙人員	検挙人員		
			日本人	外国人	暴力団構成員
合計	24	8	6	2	0
SNS型投資詐欺	5	3	2	1	0
SNS型ロマンス詐欺	19	5	4	1	0

3 主な特殊詐欺対策

(1) 検挙対策

- 特殊詐欺捜査の推進、犯行グループの壊滅に向けた体制強化
 - ・ 初動捜査及び犯行グループに打撃を与える突き上げ捜査等を一層推進するため、特殊詐欺特別捜査隊及び警察署に所要の人員を増配置
 - ・ 事件の背後にいる首謀者を含めた匿名・流動型犯罪グループ等の弱体化・壊滅を目的に、あらゆる法令を駆使した効果的かつ多角的な取り締まりを推進するため、組織犯罪対策課に所要の人員を増配置

(2) 抑止対策

- 自治体等による広報啓発（依頼）
- 広報啓発の本部への集約化
- 兵庫県警察安全安心アプリ「ひょうご防犯ネット+（プラス）」の運用開始
- 電話機対策の徹底（国際電話取扱休止サービス等）
- 闇バイト対策（リプライ警告等の実施）

リプライ警告実施件数

	R5	R6	増減
実施件数	760	7,647	6,887